

科学的な思考力・表現力を育むための観察・実験を目指して  
第2学年・生活科「めざせ！やさいはかせ！パート1～春から夏～」

嬉野・鹿島・太良支部 古枝小学校 井上浩幸

① 単元計画（全15時間）





- 第1次 野さいをうえよう（8時間）
- 第2次 野さいを大きくしよう（4時間 本時1/4）
- 第3次 たねとりをしよう（3時間）

② 本時の目標（本時9/15）

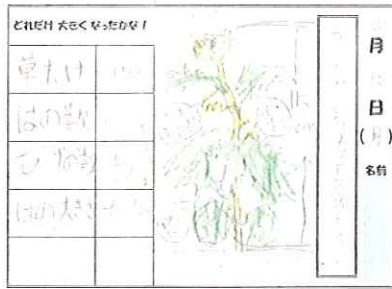
- ◎ 自分や友達の見つけたことや感じたことの良いところが分かり、これからも観察のポイントをもとにゴーヤをよく見ていこうという気持ちをもつことができる。

③ 授業の実際

——— 線内は評価規準

児童の学習活動や主な反応	具体的な指導（理科授業のポイント）
<p>1. 教室のゴーヤの成長への気づきを問い、本日の学習課題を立てる。</p> <p>2. 学習問題</p>	<p>○自由に発言させるとともに、前時の活動を思い出させ、学習課題を児童に立てさせた。</p>
<p>ゴーヤの どころが どんなふう に せいちょうしたか しらべよう！</p>	
<p>3. 比較することで、観察のポイントを考える。</p>  	<p>○前回の観察カードを配布してその時のことを思い出させると共に、観察時のゴーヤの写真を提示し、その様子を発表させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉が二枚 ・丈が5cm等</li> </ul> <p>○今のゴーヤの写真を、前回観察時のゴーヤの写真と並べて提示し（いずれも平均的な成長のもの）、「どころが」「どのように」になっているから成長していると言えるのかを考えさせ、発表させた。</p> <p style="text-align: center;"><b>はの数・草たけ</b></p> <p>○農協から頂いたゴーヤの苗を見せ、さらに「どころが」「どのように」自分たちのゴーヤより成長しているのかを考えさせ、発表させた。</p> <p style="text-align: center;"><b>はの大きさ・ひげの数・子づるの数</b></p>
<p>◆ 変化や成長の様子に関心を持ち、積極的に比較して成長しているところを見つけようとする。 <span style="float: right;">【関意態】【思考・表現】</span></p>	
<p>4. 観察記録する。</p>  	<p>○出された「観察のポイント」は、そのつどカードに書き、今後も提示できるようにした。</p> <p>○成長を調べるための「観察のポイント」を見つけることができたことを褒め、このポイントに沿って自分のゴーヤを観察してみようと投げかけた。</p>

5. 記録したことを発表する。



観察のポイントを記入し、観察の様子や気づきなどを記入する。また、観察の結果や感想を記入する。

○調べる前に、自分たちで考えた「観察のポイント」をワークシートに記入させることで、調べるところを再確認させるようにした。

○調べたことは、吹き出しで書き込ませた。

○これからの世話の改善につながるような児童の発言があれば記録するようにした。

○どんな成長があったかを、グループで情報交換させた。

○IWBで観察カードを拡大して提示し発表させた。

○わかりやすいように、発表に合わせて、数や大きさなどを書き込んだ。

◆ 自分のゴーヤを調べ、発表したり聞いたりしながら、自分や友達の見つけたことや感じたことの良いところに気づく。 【気づき】

6. 次時の見通しを持つ



○すでに成長の違いがあることに着目させ、なぜそうなるのか、どうすればさらに大きく、元気よく育てることができるのか、今後のお世話の仕方を考えてみようとして投げかけて次時への期待感を高めた。

④ 考察

進級し2年生の教室に入ると、そこには前年度の2年生からの手紙とプレゼントが置かれていた。レイシの種である。昨年の2年生は、2年生の教室だけではなく、1年生の教室の窓辺にもレイシのグリーンカーテンを育てていた。種を見た児童達は、ぜひ今年自分たちがレイシのグリーンカーテンを育てたい、1年生の教室にも作ってやりたいという願いを持った。種からのスタートだったので、発芽の段階で個体差があり、友達は芽が出たのに自分のはまだ出ないと気にして足を運ぶ姿が見られた。「大きくなってきた!」という言葉はよく聞くが、成長の根拠を明確に持つての発言ではない。そこで、今後の観察における成長や変化に関する気づきをよりわかりやすくするために、観察のポイントを児童と一緒に考え、決定していく学習を設定した。これは理科の観察の視点にもつながると考える。共通の観察ポイントがあるため、自分のレイシの成長と変化を明確に捉えることができ、継続的で主体的な観察や栽培の活動につながった。また、友達と比べることもでき、「もっと元気に育てたい」という願いを強く持つことができると考えた。実際、普段の生活の中で「もう葉っぱが20枚になったよ。」「8本目のひげが出てきたよ。」という児童同士の会話をよく耳にした。花が咲き始めたら、花の数にも着目するようになり、自分たちで観察のポイントの枠を付け足す姿もあった。



「大きくなってきた!」という言葉はよく聞くが、成長の根拠を明確に持つての発言ではない。そこで、今後の観察における成長や変化に関する気づきをよりわかりやすくするために、観察のポイントを児童と一緒に考え、決定していく学習を設定した。これは理科の観察の視点にもつながると考える。共通の観察ポイントがあるため、自分のレイシの成長と変化を明確に捉えることができ、継続的で主体的な観察や栽培の活動につながった。また、友達と比べることもでき、「もっと元気に育てたい」という願いを強く持つことができると考えた。実際、普段の生活の中で「もう葉っぱが20枚になったよ。」「8本目のひげが出てきたよ。」という児童同士の会話をよく耳にした。花が咲き始めたら、花の数にも着目するようになり、自分たちで観察のポイントの枠を付け足す姿もあった。